の輝宗ハ義光の姉婿なれば既に男子二人まで有れ
ども男頃より義光不和にて絶て直接なりと
雖も岡山人を頼み加勢を請ひ和議を遂ぐべしと思ふ
如何といふに付き両人評議の結果輝宗
大崎へ加勢あるべき定まれる義光の上ノ山まで出
馬あるべし左なくば大形近辺に出づべし其中に内
々前の人数を率ひ出し隠て走まて敵の来たらんと定
ふ方へ取懸り戦ひなば利を得ん疑なしと申せば
義光ふまきに従ひ則輝宗公へ使者を以て申入ける
其日伝義光に対し左様に仰せられ小身の者にて
て全戦まの新く知れば輝宗公は出馬に成て其
事の仕行を以て戦ひなる立不利勝利を知べし
左あらば最上中務宗の使者の方へ義政謁
々まで支配仕べきなれば内々伝言
恨ふまみ立ケまても最上の中に一体の者出来
しあるの相談を伝ふ其の事御の如く上ノ
勢と聞ん時に思されば使を立て
相談で相分出陣あるべきに近日合戦なり物見は